

10/18/2006  
Ver. 2.00

「環境マネジメントシステム」  
という考え方

日時：  
教室：

第四回講義

歴史的な流れ I  
—環境主義の台頭

†:このマークが付してある著作物は、第三者が有する著作物ですので、同著作物の再使用、同著作物の二次的著作物の創作等については、著作権者より直接使用許諾を得る必要があります。

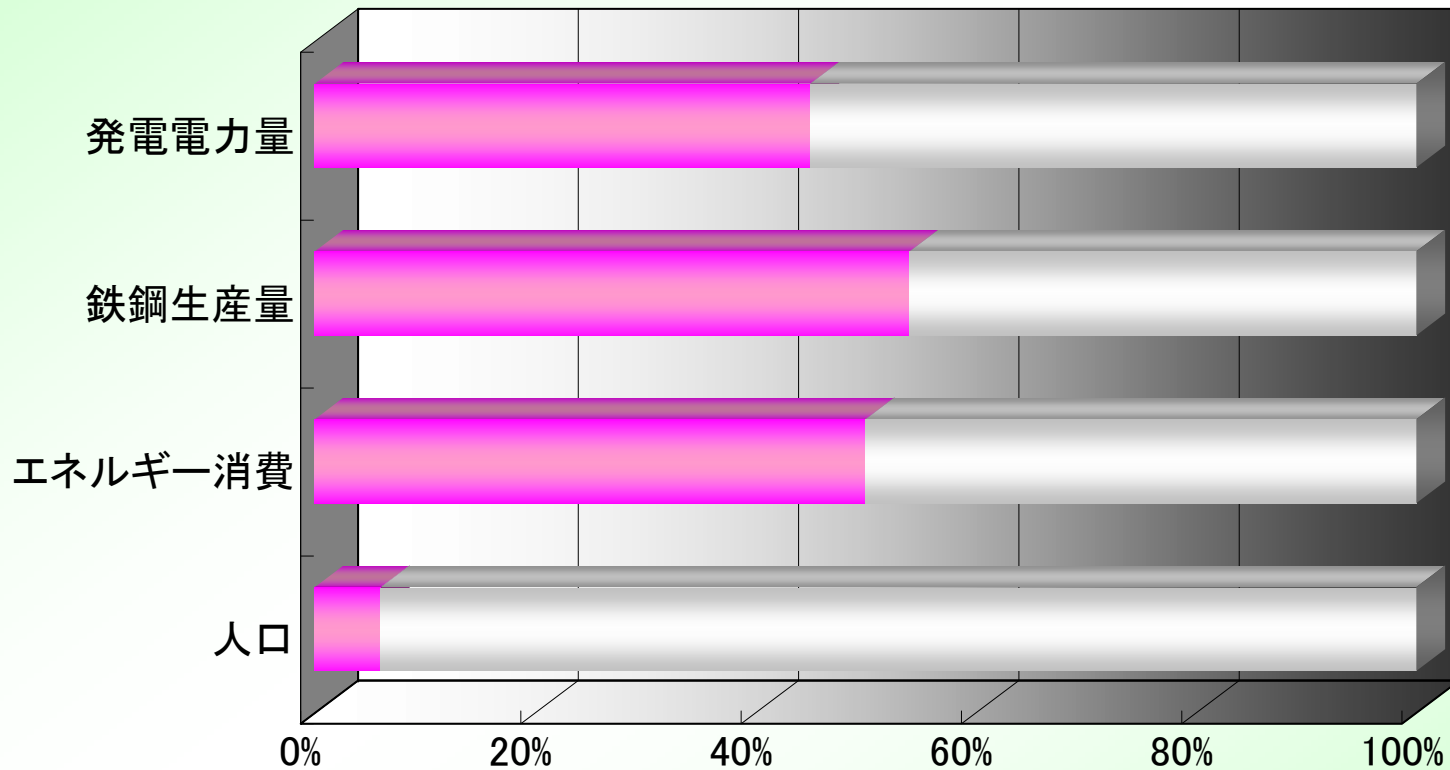
北海道大学公共政策大学院  
倉田 健児  
kurata@hops.hokudai.ac.jp

# 1950年代のアメリカ

著作権処理の都合で、  
この場所に挿入されていた  
写真を省略させていただきます。

写真: <http://encyclopedia.laborlawtalk.com/>

# 世界に占めるアメリカの比率(1950年)



出所: United Nations Statistical Yearbook 1952

# アメリカの自然保護団体

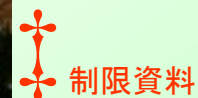
| 団体名   | 設立年  | メンバー<br>2000年<br>人 | 年間収入<br>2000年<br>M\$ | 資産<br>2000年<br>M\$ | 年間予算<br>2000年<br>M\$ |
|---|------|--------------------|----------------------|--------------------|----------------------|
| シェラ・クラブ<br>Sierra Club                              | 1882 | 642,000            | 56                   | 104                | 57                   |
| 全米オーデュボン協会<br>National Audubon Society              | 1905 | 550,000            | 83                   | 168                | 59                   |
| 国立公園保全協会<br>National Parks Conservation Association | 1919 | 450,000            | 21                   | 6                  | 17                   |
| アイザック・ウォルトン・リーグ<br>Izaak Walton League              | 1922 | 50,000             | 4                    | 6                  | 4                    |
| ウィルダネス協会<br>The Wilderness Society                  | 1935 | 200,000            | 17                   | 16                 | 14                   |
| 全米野生生物連盟<br>National Wildlife Federation            | 1936 | 4,000,000          | 99                   | 338                | 115                  |

出所: 倉田健児 『環境経営のルーツを求めて』

# 大西部への植民



John Gast  
“American Progress”  
Painted in  
1872



写真：<http://http://www.csub.edu/~gsantos/>

# 西部開拓時代の終わり

“Up to our own day American history has been in a large degree the history of the colonization of the Great West. The existence of an area of free land, its continuous recession, and the advance of American settlement westward, explain American development.”

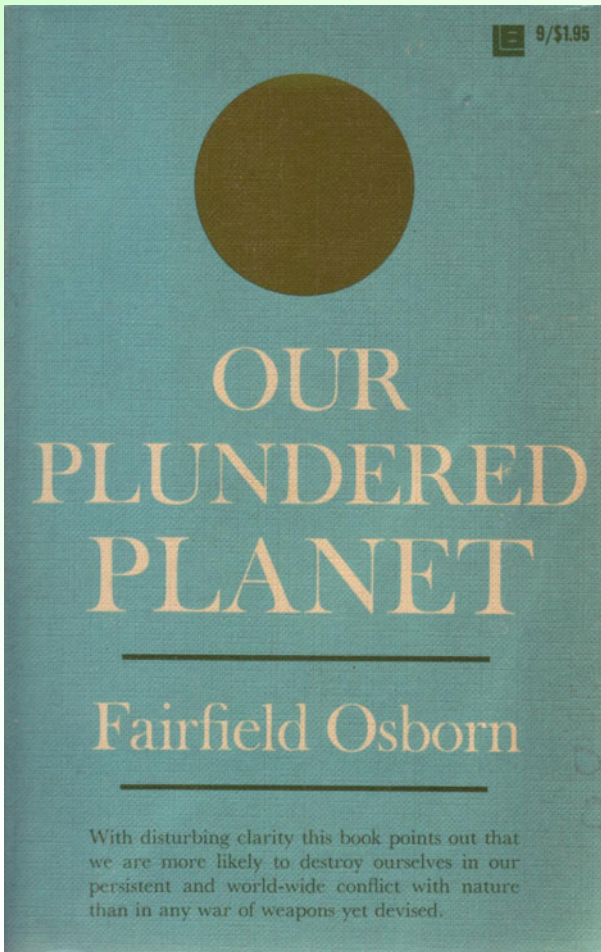
Frederick Jackson Turner, in 1893

# 警告の書ー1

著作権処理の都合で、  
この場所に挿入されていた  
『Road to Survival』の図を省略させていただきます。

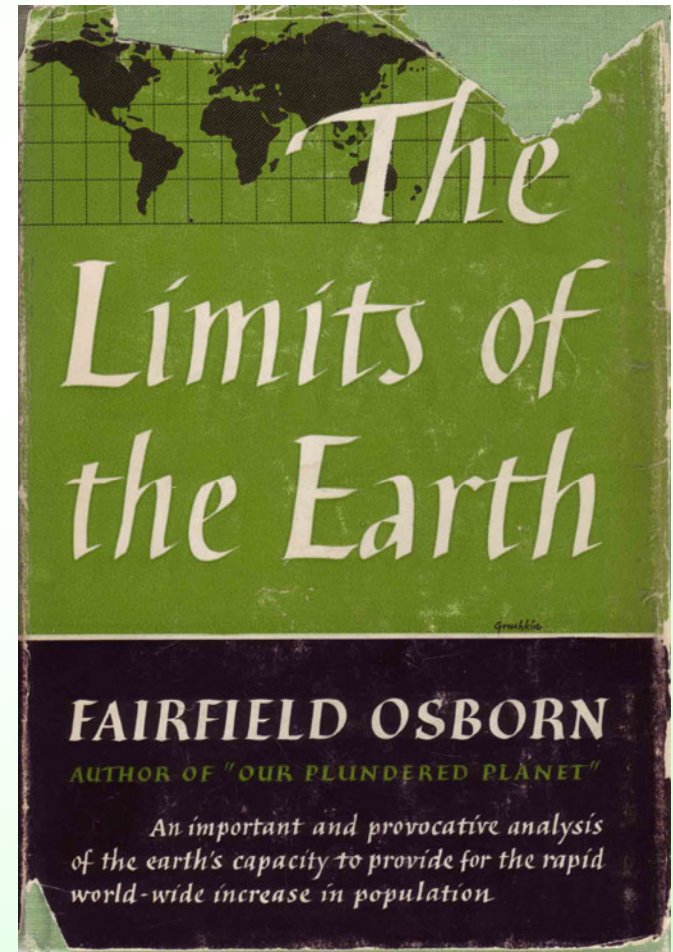
William Vogt  
(1948),  
*Road to Survival*

# 警告の書一2



Fairfield Osborn  
(1948),  
*Our Plundered Planet*

Fairfield Osborn  
(1953),  
*The Limit of the Earth*



制限資料

制限資料



# 「ゆたかな社会」

「世界に栄養不良は多いけれど、アメリカでは食料不足のために死ぬ人よりも、過食のために死ぬ人の方が多い。(中略) 多くの婦人や一部の男性にとって、衣服は身体の露出を防ぐためのものではなくなって、羽毛と同じようにほとんど全くエロティックなものになった。それにもかかわらず、生産は依然としてわれわれの最大の関心事である。(中略) **生産は依然としてわが文明の進歩と質の尺度である**」

John Kenneth Galbraith(1958), *The Affluent Society*



制限資料

# 「沈黙の春」

「春がきたが、沈黙の春だった。いつもだったら、コマドリ、スグロマネシツグミ、ハト、カケス、ミソサザイの鳴き声で春の夜は明ける。そのほかいろいろな鳥の鳴き声がひびきわたる。だが、いまはもの音一つしない。野原、森、沼地一みな黙りこくっている」



Rachel Carson(1962), *Silent Spring*

# 何故、「沈黙の春」は大きな影響を・・・

著作権処理の都合で、  
この場所に挿入されていた  
写真を省略させていただきます。

- その当時の人々が持っていた環境に対する関心や不安にカーソンの主張した内容が合致
- 「沈黙の春」は、人々の心の中に形成されつつあった環境問題に対する関心を引き出す端緒
- 1950年代とは違う社会が、そこにはあった

写真: <http://www.rachelcarsonprisen.no/>

# 1950年代とは違う社会

- 1965 連邦水質管理局(Federal Water Quality Administration: FWQA)
- 1969 国家環境政策法(National Environmental Policy Act of 1969)
- 1970 アースデイ
- 1970 環境保護庁(Environmental Protection Agency: EPA)
- 1970 大気浄化法改正(The Clean Air Act of 1970)
- 1972 水質浄化法(The Clean Water Act of 1972)

# アースデイの開催

著作権処理の都合で、  
この場所に挿入されていた  
写真を省略させていただきます。

- 1970年4月22日、アメリカ全土で約2,000万人が参加して開催
- ニューヨークでは約10万人が参加
- 環境問題は、アメリカが国家として対応すべき課題に
- この第一回の開催を皮切りに、以降全世界に

写真: <http://www.lib.duke.edu/>  
<http://www.foresthistory.org/Education/Curriculum/activity/activ4/act4es2.html>

# 1960～70年代に設立された 主な環境保護団体

| 団体名                               | 設立年  |
|-----------------------------------|------|
| Environmental Defense             | 1967 |
| Friends of the Earth              | 1969 |
| Natural Resources Defense Council | 1970 |
| League of Conservation Voters     | 1970 |
| Greenpeace                        | 1971 |
| Ocean Cnservancy                  | 1972 |
| American Rivers                   | 1973 |
| Earth First!                      | 1979 |

出所: 倉田健児 『環境経営のルーツを求めて』

# 背景としての社会運動－反戦運動

著作権処理の都合で、  
この場所に挿入されていた  
写真を省略させていただきます。

- 1965年、ベトナム戦争へのアメリカの軍事介入が本格化
- 北ベトナムへの空爆も開始
- アメリカ政府の動きに対し、大学の学生を中心に激しい反対運動
- やがて、この動きは学生だけではなく、知識人、労働組合員にも

写真: <http://www.lib.berkeley.edu/MRC/pacificviet/>  
(API)

# そのまた背景－公民権運動

- 公的な権利の獲得と差別の撤廃を求め、1950年代末から1960年代始めにかけて激しく展開
- リーダーは、マーティン・L・キング牧師
- キング牧師は、ベトナム反戦運動に対して賛意を表明することで、反戦運動の展開にも影響
- 公民権運動での経験が反戦運動、そして環境運動へと伝えられていった

著作権処理の都合で、  
この場所に挿入されていた  
写真を省略させていただきます。

写真: <http://members.fortunecity.com/babyboomer/sixties.html#>



# 物質主義への批判

- 反戦運動、公民権運動によって育まれた社会的な問題に対する行動主義は、環境運動にも
- この時期に行動主義的な環境NGOが多く誕生
- 既存の社会体制や社会制度、さらには物質主義的な社会的価値に対する批判へと拡大
- ガルブレイスが「ゆたかな社会」を著した1950年代には、顧みられることのなかった考え方

# ヒッピー運動

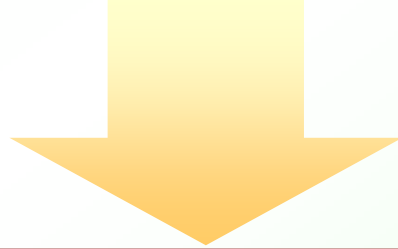
- 物質主義に対する批判の帰結として、自然への回帰が主眼となる運動も発生
- それが1960年代後半に生まれたヒッピー運動
- 西側先進工業国を中心にしながらも、アメリカから全世界へと拡散

著作権処理の都合で、  
この場所に挿入されていた  
写真を省略させていただきます。

写真: <http://cla.calpoly.edu/~lcall/204/8-10/outline.weeknine.html>  
<http://cla.calpoly.edu/~lcall/204/8-10/hippies.jpg>

# もう一つの社会運動－消費者運動

- ・ 工業化の本格的な進展により大量生産・大量消費が常態化
- ・ 工業製品としての商品の背景には、人ではなく企業という無機質な存在
- ・ 大量生産を導く企業は往々にして巨大な力を持つ大企業



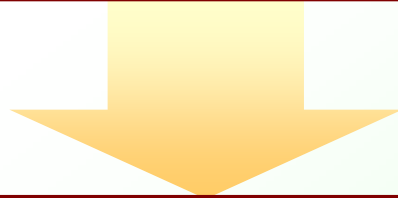
生産と消費が、生産者と消費者という個々の人間同士の関係から無機質な関係へと変化していく過程で、消費者運動の発展は加速

# 消費者運動が求めたもの

- 誇大広告に惑わされず、正確な商品知識に基づいた賢い買い物
- そのための科学的な商品テストの実施
- その結果を消費者に情報として提供
- 提供される情報の中には、商品の安全性に関する情報も含まれる
- こうした取り組みを多くの消費者が支持
- 結果として消費者運動は隆盛

# 大企業への批判と環境監査

- 「沈黙の春」の主張の根底には、化学物質をビジネスの道具とする大企業に対する批判
- 消費者運動は、大企業による市場支配に対抗する消費者の行動との側面も
- 反戦運動は既存の社会体制に対する批判へと転化、大企業は既存の体制そのもの



大衆の大企業批判に対し、大企業が講じた対応策の一つが  
「環境監査」